



編集後記

静岡県の平成 29 年現在の推計人口が 368 万 838 人と発表された。
自民党の県政検証ダイジェスト版の中に 9 つの最大課題が明記されていた。

- ① 県内防波堤整備率わずか 1 パーセント（県予算による整備）
- ② 県内総生産（GDP）の成長率、全国水準以下へ！
- ③ 人口減少、全国ワーストクラス！
- ④ 政策的根拠のない 2020 年の出生率目標値 2.07！
- ⑤ 医療・福祉の人材不足は全国ワーストクラス！
- ⑥ 企業誘致は全国有数でも地元中小企業の取引は低調！
- ⑦ 静岡市との関係は、もはや修復不可能か？
- ⑧ 施設整備の採算性、最初から計算などしていない！
- ⑨ 教員の多忙化は加速、暴力・不登校・いじめは全国ワーストクラス！

どれも深刻な課題ではあるが、やはり③の人口減少が一番気になるところだ。
若者が大学進学等で静岡県を離れてしまい、そのまま都市部へと就職してしまう結果、人口がどんどん流出してしまう現象が止まらない。

6 年前の東日本大地震の津波の被害が甚大であったため、県内の沿岸部は津波リスクもあり、人口減少・公示地価も下がり、複合的なダメージを受けている。
このまま年間数千人が減少を続けたら静岡県はどうなってしまうのか、本当に不安な気持ちになると思う。

県内でも静岡・浜松・三島などの中心部は地価を含めて堅調であるとの事だが、わが郷土の清水区は辛い状況に置かれている。

さて、柔道整復師業界に目を転じて目も覆いたくなるのが現状である。

いよいよ、柔道整復師の養成学校も閉鎖、夜間部の閉鎖等、縮小の傾向が強くなっている。これからの時代をどう生き抜くのか、それぞれの会員が真剣に向き合っていると思う。基本に立ち返り、丁寧で効果的でしかも安価であるという最大のメリットを生かしこれからも患者さんからの信頼を武器に戦うしかない様に思う。仏教の教えに、四苦八苦の四苦とは『生・老・病・死』即ち、一番最初の『生』が最も辛く苦しいものであると聞かされた。

しかし、良いことも悪いことも長くは続かないのが世の常とか。

辛く苦しい時ほど『運』は貯まるものだという言葉をエールとして最後に送りたい。『がんばれ・公益社団法人・静岡県柔道接骨師会の全会員』

広報部長 上杉 一寿

